

東浪見小 だより

《学校教育目標》

「笑顔で“か・つ・や・く”する児童の育成」



めざす子ども像

『か』→かしこく（自らよく学びよく考える子ども）：確かな学力

『つ』→つよく（健康でやりぬく子ども）：健やか

『や』→やさしく（思いやりのある子ども）：心豊か

『く』→たくましく（すすんで働く子ども）：おもてなしの心

令和6年10月31日 (No. 8) 文責：校長

先日の「運動会」では、赤組と白組に分かれた「東浪見っ子」達が互いを励まし合いながら、練習の成果や目標を達成しようと全力を尽くしました。子ども達の真剣な表情や友達を応援する姿は、私達大人も感動させられました。全員が目標を達成できたわけではありませんが、友達の素晴らしさを見つける中で、きっと大きく成長したことと思います。競技中の「東浪見っ子」達の輝かしい姿は、まさに「前へ」という言葉がぴったりのものでした。

この「前へ」という言葉は、ある大学のラグビー部の監督が選手たちに向けた言葉だそうです。仲間を鼓舞し、集中力を高めるための合言葉として、多くのチームで使われています。今回の運動会では、「東浪見っ子」達も、この言葉のように、みんなで力を合わせ、一步一步前進することができたことと思います。

保護者の皆様には、早朝から運動会に御来場いただき、誠にありがとうございました。写真撮影や後片付けなど、御協力いただいたおかげで、無事に運動会を成功させることができました。心より感謝申し上げます。

11月は、「ミニ集会」や「授業参観・バザー」を予定しています。また、中旬からはマラソン練習も始まり、「東浪見っ子」達は新たな挑戦を迎えます。今後も子ども達が様々な活動を通して成長していく姿を楽しみにしています。

【読書の秋・芸術の秋・〇〇の秋】

9月に発表された「学校読書調査(2023)」によると、小学4～6年生の1か月間の平均読書冊数は12.6冊と、10年前と比べて2冊増加し、中学生では調査開始以来最高の5.5冊を記録しました。一方、大人の62.6%が1か月間に本をまったく読んでいないという調査結果も出ています。

小・中学生の読書量の増加は、乳幼児期からの「読み聞かせ」や「ビブリオバトル(本の書評合戦)」などが効果を生んでいるようです。本校でも、子ども達による図書室掲示の本の紹介や保護者や地域の皆様に御協力いただいている「読み聞かせ」が子ども達の読書習慣の定着につながっていると感じています。

さて、今年度の「全国学力学習状況調査」の結果を分析したところ、本校の児童はスマートフォンやゲームに費やす時間が全国(県)平均より少なく、外で遊ぶ時間が長いという良好な結果が出ています。また、自己肯定感も高いことが分かりました。一方で、家庭での学習時間が短いという課題も明らかになりました。

「家庭での学習習慣」の定着は、学校と家庭の連携が不可欠です。この秋は「勉学の秋」として、学校では毎日宿題を出すなど学習意欲を高めるための取り組みを強化していきたいと考えています。保護者の皆様には、引き続き御理解と御協力をお願いするとともに、本校HPに掲載の「家庭学習のすすめ」について御一読いただき、御家庭での学習習慣づくりに御協力いただければ幸いです。

【お知らせ】

① 《相談窓口》

学校の相談窓口は下記のとおりです。御相談がございましたら御連絡ください。

- ・いじめ・セクハラ・体罰相談窓口 教頭()・養護教諭()・
- ・特別な支援に関する相談 教頭()・
- ・スクールカウンセラー (毎月第2・4水曜日)

② 《帰宅を促す声掛け(放送)について》

日没が早まりました。そこで、11月からは、グラウンドで遊んでいる児童に対し、16:00に帰宅を促す声掛けをします。御承知おきください。